

RX-600 2.4GHz FHSS-1 6-Channel Full-Range Receiver

取扱説明書

このたびは、SANWA 2.4GHz RX-600をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この取扱説明書は、本製品を安全にご使用いただくために、取扱いに関する手順、注意事項について説明しています。
本製品の性能を充分発揮させるために、ご使用になる前に本書をよくお読みになり、正しくお取扱いいただくようお願い申し上げます。なお本書はお読みになった後も、いつでも読めるように大切に保管してください。



注意 安全に使用していただくための注意事項

- 本製品RX-600はSD-10G、SD-6G、SD-5G、Stylus 2.4GHz、RDS8000専用です。その他のプロポには使用できません。
- 2.4GHz帯はラジオコントロール専用の周波数ではありません。この周波数帯はISM(産業、科学、医療)バンドと共用されているので、都市部では電子レンジ、無線LAN、デジタルコードレス電話、オーディオ機器、ゲーム機や携帯電話のBluetooth、VICSなどの近距離通信の影響を受ける可能性があります。またアマチュア無線、移動識別用帯内無線にも使用されているため、これらの影響に注意して使用してください。なお、既存の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は、速やかに電波の発射を停止し干渉回避対策をおこなってください。
- 飛行場等では2.4GHzシステムに影響を与える可能性のある機器の使用を最小限にし、必ず事前に安全性の確認をおこなってください。また、施設管理者の指示に従ってください。
- 建物や鉄塔などの後ろを飛行させたときのように電波の到達方向を遮へいすると、操縦レスポンスの低下や操縦不能になる可能性があります。常に目視で確認出来る範囲で飛行してください。
- 日本国内では、技術適合証明試験を受け、認証番号を記載した技術適合証明ラベルが貼られている送信機やモジュールが使用できます。技術適合証明ラベルを剥がしたり汚したりしないでください。
- 海外からの輸入品等の場合で、技術適合証明ラベルが貼られていない送信機やモジュールを日本国内で使用することはできません。電波法違反になる場合があります。
- (財)日本ラジコン電波安全協会では、ラジオコントロールに使用する電波を安全に使用していくための啓発をおこなっています。同協会の名称の入った技術適合証明ラベルが貼られているプロポやモジュールの使用を推奨します。



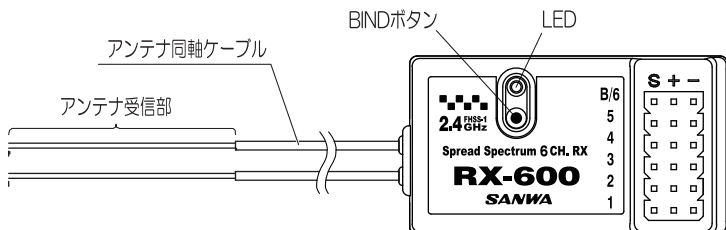
※技術適合証明ラベル例



注意 安全に使用する際の注意事項

- ほかの機器によって2.4GHz帯域を使用されている場合や、同域のノイズが周囲に発生している場合があります。必ず飛行前にはベンチテストをおこなって、正常にサーボが動作していることを確認してください。
- 使用中は送信機のアンテナを揺ったりしないでください。電波の出力が弱くなり飛行できる範囲が狭くなるので危険です。
- 送信機のアンテナは特性上、金属製のクリップなどをアンテナに取り付けしないでください。
- 受信機は精密機器です。強い衝撃や振動をあてないでください。厚手のスポンジ等を使用し、防振対策をおこなってください。
- 受信機のアンテナ線は2本あり、先端の細くなっている部分が受信部分になりますので、細い部分は曲げたり折ったりせずに機体に固定してください。曲げたり折ったりすると、受信性能が十分に発揮されません。
- 受信機のアンテナ線は構造上デリケートにできていますので、決して乱暴に扱わないでください。特に強く引っ張ったり、ケースに押し込んだりしないでください。
- アンテナ線の受信部分を保護するために、必ずアンテナパイプにアンテナを入れて、先端がアンテナパイプの外部に出ないようにしてください。
- 受信機のアンテナ線の太い部分は同軸ケーブルとなっており、深い角度で折り曲げるとの使用はやめてください。また、深い角度で何度も折り曲げると中心のアンテナ線が切れる恐れがありますので注意してください。機体に取り付ける際は、極力緩やかに曲げて使用してください。
- 受信機のアンテナ線を切ったり、延長して使用しないでください。
- 電動機に受信機を搭載する場合は、アンテナ線を出来るだけモーター、バッテリー、スピードコントローラーから離してください。
- 受信機を搭載する場合は、アンテナ受信部がカーボンや金属部品などの導電性のものに接触しないようにしてください。飛行機の胴体やヘリコプターのボディがカーボンファイバー製の場合はアンテナ受信部を胴体の外に出してください。
- コネクタが緩くなっていると、飛行中に操縦不能になる可能性がありますので、フライト毎に受信機、サーボ、スイッチハーネス等のコネクタが十分固定されていることを確認してください。
- プロポの電源スイッチをONにする時は必ず①送信機→②受信機の順番でおこなってください。また、OFFにする時は①受信機→②送信機の順番でおこなってください。
※スイッチ操作を誤って逆にすると突然エンジンやモーターが高回転になり、大変危険です。

2.4GHz 各部の名称



CH6	フラップ/バッテリー
CH5	ギア
CH4	ラダー
CH3	スロットル
CH2	エルロン
CH1	エレベーター

※ノーマルウイングタイプの接続例です。
その他のウイングタイプにつきましては送信機の取扱説明書をご確認ください。

2.4GHz BIND (バインド) の設定方法

※BIND (バインド) とは: SD-10G、SD-6G、SD-5G、RDS8000、Stylus用TM-1230モジュールはそれぞれ固有のID (固体識別) 番号をもって、そのID番号を受信機に記憶させること (BIND/バインド) です。BIND設定した送信機と受信機のセットでしか動作しないようになります。(1台の送信機に複数の受信機のBINDは可能です。)

※SD-10Gに使用される場合はBINDをおこなう前に送信機のMODULATION設定を必ずFH1に変更してからBINDをおこなってください。

(FH1ではSAFETY LINKの設定はおこなえないのでご注意ください。)

※使用する送信機 (SD-10G、SD-6G、SD-5G、RDS8000、Stylus) の取扱説明書に従ってBIND設定をおこなってください。

※スロットルスティックが最スローの位置に有ることを確認してください。電動機の場合はモーターを接続しないでください。

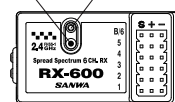
●受信機のBINDボタンを押しながら受信機側の電源スイッチをONにします。

●受信機のLEDがゆっくりとした点滅になるのを確認したら、BINDボタンを離します。

●受信機のLEDがゆっくりとした点滅の間に送信機のBIND操作をおこなってください。

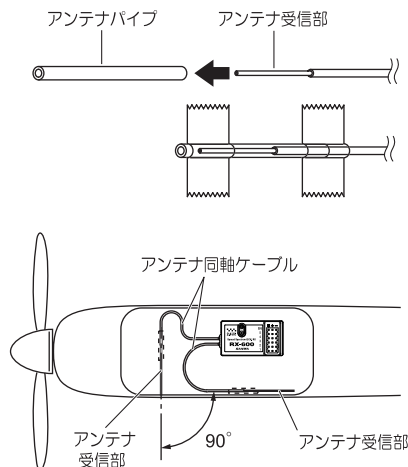
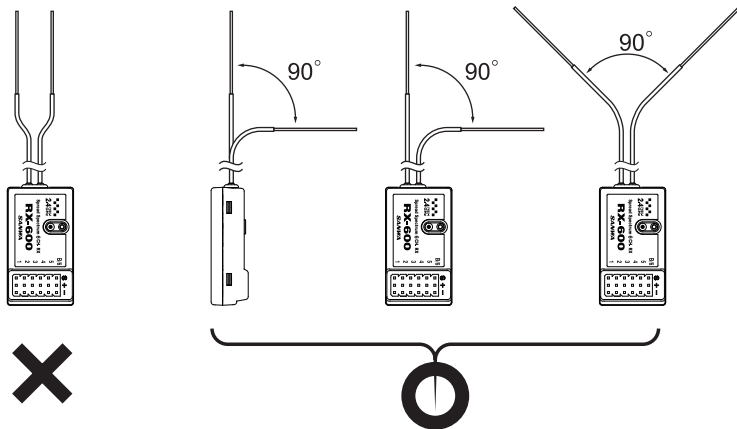
●BIND作業が終了すると受信機のLEDが点灯します。これでBIND設定は完了です。

BINDボタン LED



2.4GHz 受信機の搭載方法

- ① 受信機のアンテナ線は、機体の木材やプラスチックの不伝導部分にお互いのアンテナ受信部が90°の角度を保つように固定してください。
※機体がどんな向きになっても送信機からの信号を受信できるようにするための方法です。
- ② アンテナ受信部の機体への取り付けは、アンテナパイプでアンテナ受信部の保護、固定をしてください。
※アンテナ受信部を折ったり曲げたりしないでください。折ったり曲げたりすると受信性能が十分に発揮されません。
- ③ 機体に取り付ける際、アンテナ受信部は決して導電性の素材には触れないようにしてください。
※クライターの胴体やヘリコプターのフレームには導電性の素材が使用されていることがありますので確認してください。
- ④ 導電性の素材の機体に搭載し、アンテナ受信部が導電性の素材に囲まれた状態になる場合には、必ずアンテナ受信部を機体の外に出して取り付けてください。
導電性の素材にかこまれているとアンテナ受信部が信号を受信することができません。
- ⑤ 受信機本体やアンテナはFETスピードコントローラー、モーター、エンジン、バッテリーから極力離して搭載してください。
FETスピードコントローラー、モーター、エンジンはノイズの発生源ですので、受信に悪影響を及ぼす恐れがあります。
- ⑥ アンテナ受信部の取り付け位置によっては、電波の到達距離が短いなど、十分に性能を発揮できない場合があります。
その場合は前述の注意項目の条件を満たしたうえで、アンテナ受信部の取り付け位置を変更してください。
この場合も飛行前に機体及びサーボの動作確認を十分におこなってください。
- ⑦ アンテナはリンクagesロッドなどと平行になるように配置しないでください。
※影響により受信性能が発揮されないことがあります。



2.4GHz フェールセーフの設定方法

●フェールセーフとは、レシーバーが電波を受信できないような状況になった場合に、スロットルサーボやFETスピードコントローラーをあらかじめ設定しておいた位置にする機能です。スロットルポジションをLow側にするなど、飛行完了に操作が不能になった時に安全だと考えられる位置に設定します。

BIND設定が完了したら、フェールセーフの設定をおこなうことができます。

- ① 送信機の電源SWをONします。
※警告音が出る場合は、スロットルスティックを最スローに、ヘリタイプで使用している場合はフライトモードノーマルの状態で再度電源をONにします。
- ② 受信機側の電源SWをONして、レシーバーのLEDが点灯していることを確認してください。
- ③ 送信機を操作して、サーボが動作することを確認してください。
※サーボが動作しないようであれば、BIND設定をやり直してください。
- ④ フェールセーフを動かしたい位置に送信機のスティックを操作して、そのままの位置を保持しながら受信機のBINDボタンを押し続けます。
受信機のLEDがゆっくりとした点滅、次に高速点滅し、最後に点灯してフェールセーフの設定は完了です。BINDボタン、送信機のスティックを離してください。
※受信機のLEDが点灯するまでBINDボタンを押し続けてください。
- ⑤ 送信機の電源スイッチをOFFにしてフェールセーフが適切に動作するか確認してください。動作確認できたら送信機の電源スイッチをONしてサーボが動作できることを確認してください。

⚠ 注意

- 安全のため、フェールセーフの設定を必ずおこなってください。
- フェールセーフの設定をおこなったあとでBIND設定をおこなうと、フェールセーフの設定がクリアされますので、再度フェールセーフ設定をおこなってください。
- レシーバー側の電圧が低下した場合にはフェールセーフ機能は動作しません。
- 設定できるのは1ch~4chのみです。(※5ch・6chは設定できません。)また、各chは一括設定となり個々に設定することはできません。

2.4GHz 修理について

調子が悪いときはまずチェックを！。

修理に出される場合は、故障状況を詳しくご記入の上、本社サービスへ修理依頼してください。

また、ご質問、お問い合わせがありましたら、サンワサービスにて受付しております。

電話でのお問い合わせは土曜、日曜、祝祭日を除くAM9:30~12:00、PM1:00~5:00です。

修理依頼カード このカードに故障状況を詳しくご記入のうえ、必ず製品と一緒に送ってください。

フリガナ
お名前 _____ 電話 () _____

〒 _____

ご住所 _____

故障状況 _____



三和電子機器株式会社

本社/東大阪市吉田本町1丁目2-50
〒578-0982 TEL072 (964) 2531

東京営業所/東京都台東区浅草橋3-18-1 (KKKビル)
〒111-0053 TEL03 (3862) 8857

本社サービス/東大阪市吉田本町1丁目2-50
〒578-0982 TEL072 (962) 2180